

患者の皆様へ

2017年10月17日 婦人科

当院で診断、治療される患者さんの診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 若年性子宮体癌・子宮内膜異型増殖症に対する妊孕性温存療法についての後方視的検討

2. 研究の意義・目的

子宮体癌で子宮温存療法を希望されている場合には通常、メドロキシプロゲステロン (MPA) 療法が行われています。多くの施設で行われていますが、MPA の投与量、投与期間は決まっています。また、奏功率は比較的高いところが知られますが、寛解した患者さんの 40-50%が再発するといわれています。当院ではこれまで糖尿病治療薬メトホルミンを併用した臨床試験を行い良好な成績を報告してきましたが、長期的な治療成績、妊娠率はまだわかっていません。本研究では、当院での成績をまとめ、温存療法、およびメトホルミン併用の長期的な効果を確認することが目的となります。

3. 研究の方法

1996年から2017年に、千葉大学医学部附属病院で子宮体癌および子宮内膜異型増殖症の診断で、妊孕性温存療法を施行した患者さんを対象に以下の項目をカルテ上調査します

a. 患者背景因子

病名 (子宮体癌、子宮内膜異型増殖症)、進行期、治療開始時の年齢・身長・体重、BMI、婚姻状況、妊娠歴、月経周期、不妊治療歴、不妊期間、挙児希望の有無、糖尿病の有無、多嚢胞性卵巣症候群の有無、その他合併症

b. 検査値 (温存治療開始前、MPA 投与後)

75g 糖負荷試験結果、LH、FSH、PRL、E2、T、P、HOMA-R、LDL、HDL、TG

c. 治療法:

MPA 投与量、投与期間、
メトホルミン併用の有無、投与期間、投与量
MPA、メトホルミン投与時の有害事象

d. 治療成績

寛解の有無、寛解日、寛解までの期間
再発の有無、再発日、再発時の病理結果、
寛解後の妊娠の有無、不妊治療の有無 (ART の有無、人工授精、不妊治療法)、妊娠までの期間、妊娠転帰

e. 非寛解例の治療、再発後の治療法 (ホルモン治療継続、根治手術法、

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は匿名化して解析し、外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しません。データ等は、千葉大学大学院医学研究院生殖医学教室の鍵のかかる棚で保管します。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省、厚生労働省が定める「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」
(平成26年12月22日)に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院婦人科
本件のお問合せ先: 千葉大学医学部附属病院婦人科
医師 三橋 暁

043 (222) 7171 内線 6893 (婦人科外来)

